

活動名	軽度発達障がい児童対象「1 DAYキャンプ」	団体名称	特定非営利活動法人 日本冒険教育協会
		活動テーマ	子どもの健全な育成を支援する活動
		活動目的	⑤障がい、難病の子どもの支援活動
■活動結果(概要)		■実施スケジュール結果	■各スケジュールごとの活動内容
<p>本事業に軽度発達障がいを持つ幼児～小学生計20名が参加した。子どもたちは、慣れない環境下でとても不安になっていたが、活動を共にしていく中で、様々な事に挑戦することができた。これは、新しい事への挑戦が苦手な発達障がいの子どもにとって、大変素晴らしい成果となった。</p> <p>自然・野生生物との触れ合い、仲間と協力したや野外炊飯、初めて体験に挑戦心を持って取り組み、体験活動からなる貴重な学び場となった。</p>		<p>日帰りキャンプ実施日程</p> <p>①平成30年6月24日</p> <p>②平成30年8月12日</p>	<p>①日程：入所式、交流ゲーム、ネイチャービンゴ（生き物探しゲーム）、野外炊飯（カレー作り）、ウッドチップクラフト</p> <p>②日程：入所式、交流ゲーム、魚掴み、浅瀬川遊び（ロックダイビング）、野外炊事（焼きそば作り）</p>
■活動目標	日帰りのキャンプを通した、発達障がいへの協調性、挑戦心、環境意識の育成		
■長期成果	軽度発達障がいの子どもたちが、自然に親しみ、そこで活動する楽しさ、仲間との協力の重要性、慣れないことに挑戦する気持ち、達成したことで得ることができる自信、山や川で活動することで「海・山・雨・川」の自然水のサイクルや、環境破壊による野生動物の減少など、子どもたちを「環境」について目を向けさせ、人間関係・環境に対する学びの場としていく。		
活 動 風 景			
 <p>仲間と打ち解ける為のアイスブレイクゲーム。子ども同士の壁がなくなり、自然と仲良くなっていきます。</p>		 <p>昼ご飯はカレー作りに挑戦。野菜切り係と火起こし係に分かれ、美味しく作れました。</p>	
		 <p>川遊びの最中、魚掴みを行いました。実際に内蔵を取り出し、食育を学びます。</p>	
■得られた成果と今後の課題	■受益者や地域社会の変化	■得られたノウハウの共有・発信	
<p>●発達障がいの子どもにとって、慣れないこと、初めてのことを挑戦することは、非常に勇気がいることである中で、2日程の中で、全参加者が全ての活動を行うことができ、素晴らしい成果だと感じた。新しい事へ挑戦できた事、苦手や怖い思いから泣いてしまう子ども中で、苦手克服をしながら勇気を持って取り組むことができた。この経験を通し、今後の自信への繋がりを期待する。</p> <p>●今回、「軽度」発達障がいを対象としたが、実際はどこまでの子どもを「軽度」と見なすが非常に難しかった。軽度の方向けの確認項目を申し込みフォームに取り入れたところ、申し込みで詳しく図ることができたが、重度の方の受け入れは、現時点では難しいと判断した。今後は、軽度～重度の子どもたちも対象とした体制が取れるよう、取り組んでいきたい。</p>	<p>●子どもたちはキャンプを通し、野生生物や四季の環境変化を肌で感じることができ、自然環境への興味関心がとても高くなったと感じた。中でも、野生の生き物に触れ合うことができたのは、とても嬉しいことだったらしく、自然があるところでしか出会えない生物がいることを学び、まずは身近な自然環境への保護として「ゴミの分別」を頑張りたいと話していた。</p> <p>●第1回目の参加した時と比べ、第2回目子どもたちは、慣れてきたこともあり、仲間との協力をするようになってきた。高学年は低学年の面倒を見てあげたり、野外炊飯で協力して料理を作れたり、色んな経験を通す中で、仲間のために自ら動くようになっていた。</p>	<p>●発達障がいの子どもたちに募集パンフレットを配布する際、近隣の発達障がい児童を専門とした、放課後デイサービスの施設に配布依頼を行ったところ、許可をしてくださる施設は少なかった。配布を依頼する以前に、団体との信頼関係が成り立たないと、配布依頼は難しいと感じた。</p> <p>●子どもたちは、自然に対する興味・好奇心が非常に高く活動していた。また、自然や生物に対する質問が非常に多く、自然解説としてのクイズや、Q&A形式で行えば、より環境理解や環境に対する意識を高められるのではないかと考えた。</p>	
〒477-0037 愛知県東海市高横須賀町戌亥屋敷7-1 特定非営利活動法人 日本冒険教育協会 http://jaea-net.com/		助成金額 328000円	
		助成期間 H29.9.1～H30.8.31	

※長期成果とは、活動目標に向かって継続的な事業を進める中で将来得られる活動成果とします。